



令和6年度

第2回コロラド安全対策連絡協議会

治安情勢と安全対策

2025年3月7日

在デンバー日本国総領事館

CONTENTS

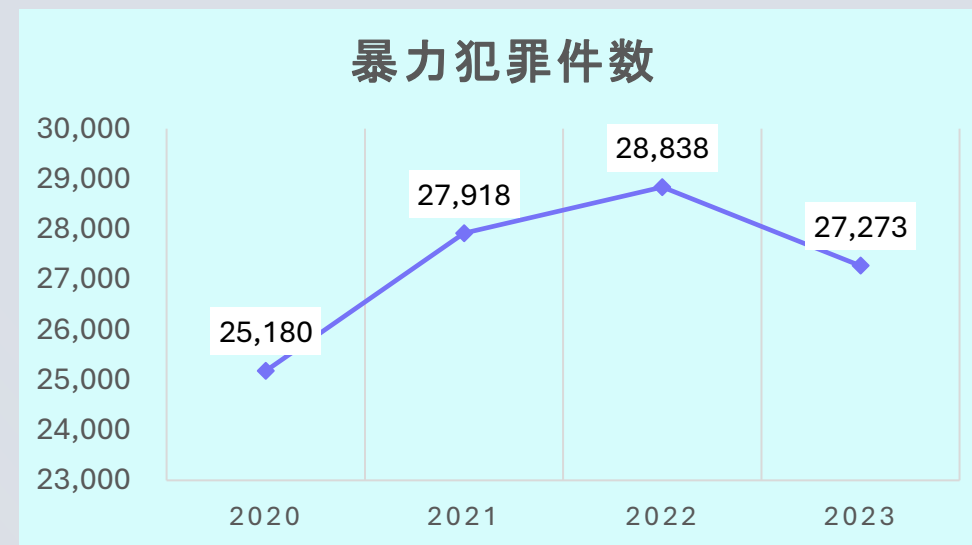
- 1 コロラド州の治安情勢
- 2 最近の犯罪事例
- 3 被害に遭わないために

コロラド州の治安情勢

コロラド州の犯罪件数はコロナ禍から増加していましたが、2023年は暴力犯罪（殺人、強姦性交、加重暴行、強盗）及び財産犯罪（窃盗、侵入盗、自動車盗）ともに全米と同様に一旦の減少傾向となりました。

暴力犯罪の合計件数は2022年:28,838件から2023年:27,273件へと約5.4%減少しました。

財産犯罪の合計件数は2022年:186,330件から2023年:168,021件と約9.8%減少しました。



【参考】 FBI Crime Data Explorer

コロラド州の治安情勢（全米比較）

コロラド州の犯罪件数（人口 590万1,000人）

暴力犯罪（殺人、強制性交、加重暴行、強盗等）

殺 人 3 1 3 件

強制性交 3 , 4 0 5 件

加重暴行 2 0 , 0 9 1 件

強 盗 3 , 7 7 7 件

計 2 7 , 2 7 3 件

財産犯罪（窃盗、侵入盗、自動車盗、放火等）

窃 盗 1 0 8 , 0 9 5 件

侵入盗 2 0 , 7 6 4 件

自動車盗 3 7 , 9 5 5 件

放 火 1 , 2 0 7 件

計 1 6 8 , 0 2 1 件

全米の犯罪件数（人口 3億3,650万人）

暴力犯罪（殺人、強制性交、加重暴行、強盗等）

殺 人 2 0 , 7 0 3 件

強制性交 1 9 8 , 6 8 7 件

加重暴行 8 4 5 , 7 8 2 件

強 盗 2 1 4 , 9 3 5 件

計 1 , 2 8 0 , 1 0 7 件

財産犯罪（窃盗、侵入盗、自動車盗、放火等）

窃 盗 4 , 2 5 4 , 8 8 0 件

侵入盗 7 9 6 , 4 8 3 件

自動車盗 1 , 0 3 1 , 8 3 9 件

放 火 3 6 , 2 9 3 件

計 6 , 1 1 9 , 4 9 5 件

コロラド州の治安情勢 (10万人あたりの犯罪件数)



犯罪種類	コロラド州	全 米
殺 人	5.3	5.6
強 制 性 交	57.7	35.8
強 盗	64.0	63.9
加重暴行	340.5	251.3
窃 盗	1831.8	1264.5
自動車盗	643.2	306.6
放 火	20.5	10.8
侵入盗	351.9	236.7
全犯罪	3310.0	2169.6

治安情勢の指標となる10万人あたりの犯罪発生件数を全米と比べてみると、コロラド州は殺人を除き、他の犯罪では全米の数値を上回っています。

また、人口を全犯罪件数で割ると約30人に1人は何らかの犯罪に遭っている計算となります。

引き続き、犯罪に巻き込まれないようにするための日頃からの安全対策が重要だと言えます。

最近の犯罪事例（①空き巣）

デンバー都市圏内でアジア人ビジネスオーナーや富裕層の自宅を標的としたの高額侵入窃盗（空き巣）事件が2024年1年間で40件発生。

犯行グループは被害者を尾行して自宅を特定した後、自宅周辺に小型カメラを忍ばせたり、ドローンやGPSトラッカー等を駆使し、被害者の行動パターンを確認。また、警備会社と契約している家であっても警備機器の電源を遮断したり、ケーブルを切断して警報が鳴らないようにし、人目のつきにくい裏口や地下入口から侵入し、犯行に及んでいる。

当地治安当局は侵入窃盗被害に遭わないよう次のような対策を推奨しています。

- 多額の現金は自宅に保管しない。保管する場合には金庫を設置し、床や壁に据え付ける。
（または簡単には動かせない重量のものを準備する。）
- 少なくとも週1回は自宅周辺に不審物がないか確認する。
- 警備機器（カメラ、モニター等）には予備バッテリーを用意する。
- 庭や室内の照明をタイマーを使用して点灯させる。
- 裏口や地下入口等の施錠を徹底する。
- 隣人と協力して不審者や不審車両を見かけた場合には連絡を取り合う。
- 番犬を飼う。
- 不審なことがあった場合には躊躇なく警察等に通報する。

最近の犯罪事例（②刃物による殺傷）

本年1月11日及び12日にコロラド州デンバー市のダウントウン（16th Street Mall）において、同一犯による刃物を使用した連続殺傷事件が発生、2人が死亡。

当地治安当局より外出時の防犯対策として次のようなアドバイスがありました。

- ・ 常に周囲を警戒する。
- ・ 暗いところを歩かない（これが一番大切）。
- ・ 人通りのある道を選んで歩く。

（上記の事件では、被害者は4人とも単独行動していて、周囲に目撃者もいなかった。）

- ・ （強盗等への警戒として、）手に携帯電話やパソコン、高価なものを持たない。

最近の犯罪事例（③日本の公的職員を装った特殊詐欺）

当館管轄区域（コロラド州、ニューメキシコ州、ユタ州及びワイオミング州）にて日本の公的機関の職員を装って電話を掛け、逮捕や口座凍結及びパスポート失効等を示唆して不安をあおり、在留邦人から金銭を騙し取る詐欺が発生しています。

被害に遭わないために次の点に留意してください。

- ・ 身に覚えのない内容で金銭や個人情報を要求する不審電話を受けた場合には、詐欺である可能性が極めて高いと考えましょう。
- ・ 不審な電話に対しては相手が何を言おうと一度電話を切ることが重要です。その上で相手が名乗った先に直接電話をかけて事実関係を確認したり、親族や友人、警察や総領事館等の周囲の人に相談しましょう。
- ・ 日本の警察が電話やビデオ通話で事情聴取等を行うことはありません。また、警察を含む公的機関の職員等が電話で金銭を要求することはありません。

安全対策のための三原則

(被害に遭わないために)



目立たない

必要以上に華やかな服装や装飾品を身に着けると周囲から目立ち、犯罪者に目を付けられやすくなります。服装や持ち物は目的、場所や時間等に合わせて選びましょう。



行動を予測されない

通勤・通学等、日々の行動がパターン化すると犯罪者のターゲットになる恐れがあります。時間や経路は時々変えて、不規則な行動をとるよう心掛けましょう。



用心を怠らない

当地での生活に慣れてくると、油断しがちになり、思わぬ事故や犯罪に巻き込まれることがあります。日頃から治安や交通に関する最新情報を収集し、周囲への警戒意識を持った行動を心掛けましょう。